

ハーブティ

～女と男をかんがえる～ ハーブティ:「ハーブ (herb)」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

～平日、日中、あなたとあなたのご家族はどこにいますか？～
もし、そのとき、災害が起こったら！



災害発生時は、住民同士の助け合いが大きな力、助けとなります。不安、恐怖の中、「ひとりではない、誰かとつながっているんだ。」という気持ちを持てることが安心感へとつながります。

家族会議を開きましょう

もしもの時に備え、家族会議を開き、共通認識を図ることがたいせつです。

- ・避難所、病院などを確認しましょう。
- ・災害時に、「誰に」「どのような方法で」連絡をするのか確認しましょう。
- ・家族内での役割を確認しておきましょう。(特に、乳幼児、高齢者、障がい者がいる場合は入念に)
- ・保育所、学校、介護施設などの引き取りに関する取り決めを確認しておきましょう。

地域とつながりましょう

日頃から地域に関心を持ち、お互いに協力できる関係を築いておくことがたいせつです。

- ・祭りなど地域の行事に積極的に参加しましょう。
- ・自治会や自主防災組織の活動に参加しましょう。
- ・避難訓練や救命救急の講習会に参加しましょう。
- ・日ごろからご近所とあいさつをかわし、関心を持ちましょう。

防災訓練のようす (平成28年10月2日 西小学校にて)



応急給水訓練



負傷者救出訓練



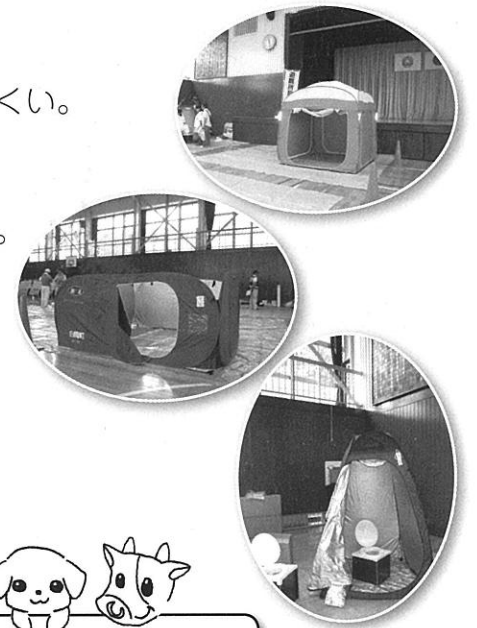
炊き出し訓練

男女で異なる被災体験の実情 (大震災からの教訓)

- ・リーダー的存在の女性が極めて少なく、発言する機会を持ちにくい。
- ・男性として、責任を感じすぎて疲れてしまう。
- ・DVや女性、子どもへの暴力が増大する。
- ・家事や育児、介護に至るまで、女性への負担が非常に増大する。

男女共同参画の視点を生かした避難所運営の一例

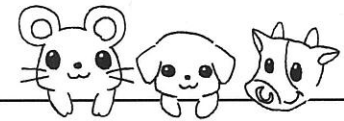
- ・男女別のトイレ・更衣室や女性専用洗濯物の干し場の確保
- ・居住スペースへの仕切り設置など安心感の確保
- ・授乳室や子どもの遊び場と共に女性だけが集まれる場所の確保
- ・生理用品や下着類は女性が配布するという配慮
- ・メンタルケア、健康相談の窓口を設け、男女両方の相談員の確保



編集委員レポート

～With Youさいたま「女性防災フォーラム」に参加して学んだこと～

- ・避難所運営に、女性も参加できるような環境づくり
- ・一部の男性に負担が集中しないよう、お互いに協力し合うこと
- ・被災者が必要としているものを把握できるよう、女性の意見を積極的に取り入れること
- ・移動が困難な人や視覚・聴覚障がい者などにも情報がわかりやすく伝わるような方法を考えること
- ・ご近所付き合いなど地域コミュニティを活用し、被災者の安否確認や避難所での声かけをすること



弱い人ほど声が出せない

困った時に声が出せない

皆に声をかけることができる人が必要



声を強烈に出すことも必要

男女が共に支えあう地域づくりを・・・

東日本大震災以来、防災に関する意識が高まっていると思いますが、「自分は大いじょうぶ」という気持ちがあることも、完全には否定できないように思われます。

「日ごろできないことは災害時にもできない!」のです。教訓から学び、備え、いざというときに慌てない男女が共に支えあう地域づくりを着実に実施していくことがたいせつなのではないでしょうか。



お知らせ 男女共同参画パネル展『“わたしの” 防災対策』

ぜひ、ご覧ください。

展示期間 3月2日(木)～3月14日(火) 午後1時

会場 庁舎1階市民ラウンジ

しらおか男女共生広報編集委員 宮寄千英子・依田 透・西村恵子 イラスト Yumeka
問合せ 地域振興課 人権担当 内線385